慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	外食産業における成長戦略
Sub Title	
Author	寺本督(Teramoto, Tadashi) 小野桂之介
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1985
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1985年度経営学 第419号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001985-0419

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

No. 0419

学生氏名　寺本　督
（株式会社淡路屋）
所属ゼミナール　和田充夫研

主査　小野桂之介
副査　嶋口充輝
和田充夫

外食産業における成長戦略

外食産業は、近年急成長を達成し、ようやく産業として認知されてきた。しかし、現在その成長率は鈍化し、また、業界内は、ごく少数の大企業とその他大部分を占める生業的な店舗が混在する二重構造の様相を呈している。本論文は、大規模化を達成した外食企業のこれまでの戦略を分析し、併せて、低成長下に入った業界にあって、これら企業の今後の生き残りのための戦略的示唆を与えようとするものである。

まず、本論文では、外食業をサービス業の一形態と捉え、その特徴である生産性の低さを基本的な問題として採り上げた。そして、それを解決する手段としての外食の工業化（効率追求のための戦略）と、成熟型消費社会の特徴である個性化の傾向に対処する個別対応の戦略（効果を追求する戦略）の組み合わせの程度が、外食産業の最適な成果を生み出すという仮説のもとに分析を進めた。

仮説検証にあたっては、外食企業197社に対して、質問票を送付し、実証分析を行なった。その結果、109社より回答を得、種々の分析の結果、次のことが実証された。①外食業の採用戦略は、業態によって異なっている。つまり、ファストフード等は、効率を優先させ、ディナー・レストラン等は効果を優先させている。②各業態毎の有効戦略は、効果や効率のいずれか一方を追求するのではなく、その同時追求を行なうことである。